

# 熊本商工会議所・第26回経営動向調査

## 平成14年12月期結果報告書

業況DI 対前期比9.0ポイント改善しマイナス37.4

～対前年同期比D I は悪化など一進一退～

### 調査結果のポイント

全業種の業況D I は対前期比で平成14年9月期の前回調査より9.0ポイント改善し、マイナス37.4となった。

対前期比において業況が改善した業種は、製造業が前回調査(9月)から39.2ポイント改善し▲20.8。建設業(土木)が36.9ポイント改善し▲23.1。小売業が16.4ポイント改善し▲59.2。サービス業が2.0ポイント改善し▲24.3。

対前期比において業況が悪化した業種は、卸売業が前回調査(9月)から10.2ポイント悪化し▲54.2。飲食店が21.8ポイント悪化し▲38.5。建設業(職別・設備)は▲18.2で横ばいだった。

今回の調査では、卸売業、飲食店を除く5業種で、年末特需のため売上高D I は改善され、全体の業況D I は改善される結果となった。

しかしながら飲食店では売上高D I、業況D I が悪化するなど個人消費が明らかに回復しているとは言い難く、また、対前年同期比との比較では、平成14年9月期の前年同期比の結果に対し8.7ポイント悪化し、マイナス50.8となり、また来期(15年1～3月)見通しも16.3ポイント悪化し、マイナス35.9となった結果など、対前期比D I は改善したものの景況感の回復には透明さを欠き、一進一退の状態がうかがわれる。

調査対象期間 平成14年10月～12月(平成14年度第3四半期)

調査期間 平成14年12月11日(水)～15日(日)

調査対象数 熊本市内小規模企業 292事業所

回答数 184事業所(回答率63.0%)

(小規模企業とは、商業・サービス業では従業員5名以下、それ以外の業種は20名以下の企業)

### 《 産業別回収状況 》

調査産業	調査対象数	回答数	回答率(%)
製造業	37	24	64.9
建設業(土木)	22	13	59.1
建設業(職別・設備)	34	23	67.6
卸売業	36	25	69.4
小売業	69	49	71.0
飲食店	23	13	56.5
サービス業	71	37	52.1
合計	292	184	63.0

### ※ DI 値(業況判断指数)について

DI 値は、売上高、受注・販売単価、業況などの各項目についての、判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気や弱気など「景気の実感」をそのまま表わすもの。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

## 対前期比を主とした産業別概況

### 全業種

受注・販売単価、仕入単価がほぼ横ばいの中、売上高が大幅に改善。それにより営業利益も大幅に改善し、全体の業況もやや改善した。

※全業種における売上高D I の変化 14年9月期▲38.8⇒14年12月期▲19.7

### 製造業

仕入単価がやや悪化した。受注単価の大幅な改善により、売上高も大幅に改善した。それにより営業利益が大幅に改善し、全体の業況も大幅に改善した。

※製造業における業況D I の変化 14年9月期▲60.0⇒14年12月期▲20.8

### 建設業（土木）

受注単価は悪化した。仕入単価が大幅に改善する中、売上高が大幅に改善し、営業利益も大幅に改善。全体の業況も大幅に改善した。

※建設業における売上高D I の変化 14年9月期▲56.3⇒14年12月期▲15.4

### 建設業（職別・設備）

仕入単価はやや悪化した。受注単価の改善を背景に、売上高が改善され、営業利益も大幅に改善した。全体の業況は横ばいだが、マイナス18と全産業平均のマイナス37に比べると健闘。

※建設業（職別・設備）における営業利益D I の変化 14年9月期▲54.5⇒14年12月期▲18.2

### 卸売業

仕入単価はやや改善したが、販売単価がやや悪化したため、売上高は横ばい。営業利益はやや悪化し依然として低水準が続いている。全体の業況は大幅に悪化した。

※卸売業における業況D I の変化 14年9月期▲44.0⇒14年12月期▲54.2

### 小売業

販売単価の大幅な改善に伴い、売上高が大幅に改善。仕入単価もやや改善したため、営業利益が大幅に改善。全体の業況も大幅に改善した。

※小売業における営業利益D I の変化 14年9月期▲71.1⇒14年12月期▲46.9

### 飲食店

仕入単価はやや悪化で止まったが、販売単価、売上高が大幅に悪化し営業利益も大幅に悪化。全体の業況も大幅に悪化した。

※飲食店における営業利益D I の変化 14年9月期▲16.7⇒14年12月期▲61.5

### サービス業

販売単価はやや悪化した。売上高が大幅に改善。仕入単価がほぼ横ばいであったため営業利益もほぼ横ばい。全体の業況もほぼ横ばいとなった。

※サービス業における売上高D I の変化 14年9月期▲18.4⇒14年12月期▲5.4

# 産業別一覧

上段=対前期比

下段=対前年同期比

業種	今回分 (H14.12月期)	前回分 (H14.9月期)	比較ポイント
製造業	▲20.8	▲60.0	+39.2
	▲50.0	▲52.0	+2.0
建設業 (土木)	▲23.1	▲60.0	+36.9
	▲41.7	▲50.0	+8.3
建設業 (職別・設備)	▲18.2	▲18.2	0.0
	▲34.8	▲19.0	▲15.8
卸売業	▲54.2	▲44.0	▲10.2
	▲60.9	▲34.6	▲26.3
小売業	▲59.2	▲75.6	+16.4
	▲67.3	▲71.1	+3.8
飲食店	▲38.5	▲16.7	▲21.8
	▲53.8	0.0	▲53.8
サービス業	▲24.3	▲26.3	+2.0
	▲35.1	▲28.9	▲6.2
全体	▲37.4	▲46.4	+9.0
	▲50.8	▲42.1	▲8.7

## 来期の見通しD I

全産業における来期（平成15年1月～3月）の業況見通しD Iは、マイナス35.9と9月期の前回調査から16.3ポイント悪化した。

各産業別の来期の業況見通しは、下の一覧のとおり。

産業別では、前回調査と比べ、来期の見通しD Iが改善された業種は、建設業の土木（36.5ポイント改善し▲25.0）、建設業の職別・設備（4.7ポイント改善し▲4.8）の2業種。

前回調査と比べD I値が不変であった業種は、卸売業（前回と変わらず▲26.1）。

前回調査と比べD I値が悪化した業種は、製造業（23.8ポイント悪化し▲33.3）、小売業（29.3ポイント悪化し▲54.3）、飲食店（36.7ポイント悪化し▲66.7）、サービス業（28.5ポイント悪化し▲31.4）の4業種。

	今 回	前 回	比 較
製 造 業	▲33.3	▲9.5	▲23.8
建設業（土木）	▲25.0	▲61.5	+36.5
建設業（職別・設備）	▲4.8	▲9.5	+4.7
卸 売 業	▲26.1	▲26.1	+0.0
小 売 業	▲54.3	▲25.0	▲29.3
飲 食 店	▲66.7	▲30.0	▲36.7
サービス業	▲31.4	▲2.9	▲28.5
全 体	▲35.9	▲19.6	▲16.3